

科目名：図画工作（演習） （2単位）	担当講師： 佐藤 鷹通	使用テキスト：出版社名・テキスト名・著者名 萌文書林 「保育をひらく造形表現」 槇英子
授業の到達目標及びテーマ： 保育の教育現場を想定し、様々な造家表現の実習や製作活動を通して子どもの造形活動を支える基本的知識や技能を習得する。		
授業の概要： 絵画、デザイン、立体造形、色彩等に関わる様々な教材研究や実習を通して基礎知識と表現力を探求しながら身に付け、教育現場で展開する子どもたちの活動内容も念頭に置いて授業に向かう姿勢をみにつけさせる。		
回	項 目	内 容
1	図画工作について	子どもたちの図画工作に関わる指導に必要な基本的事項（子どもの年齢による表現の特徴・喜びを感じさせる授業等）を、授業を通して学び取ることの重要性について理解を深める
2	線の魅力について	子どもたちの図画に表現された大人の絵には観られない生き生きとした線の純真さや魅力を授業を通して自分でも体感し、線に表れる表情を感じ取る力を養う。
3	各種技法1	表現に役立つ様々な技法（コラージュ等の11種類の技法）を8cm四方の正方形の枠内に施す。
4	各種技法2	表現に役立つ様々な技法（コラージュ等の11種類の技法）を8cm四方の正方形の枠内に施す。
5	風景画（デッサン）	学院裏の平和公園で、様々な樹の中から自分の好きな樹を選び、鉛筆デッサンする。樹の造りと葉のかたまりに注意を向けさせる。
6	風景画（デッサン）	前回描いた樹の線や形、かたまりに足りないものや新しく感じたことがあったら躊躇することなく描きこんでいく。この姿勢が子どもたちの絵を理解しやすくすることを学ぶ。
7	風景画（着色）	公園でのデッサンの前に絵の具やパレットの基本的使用法を説明する。着色態勢に入ったら、学生一人一人を巡回し各人の個性を読み取る。
8	風景画（完成）	巡回指導においては、学生たちが教育実習において描画の時に子どもたちへどのようなアドバイスをすればよいのかという視点から指導する。
9	コラージュ（構想）	幼稚園、保育園、障がい児施設等において、コラージュは子どもたちが喜んで活動する課題であることを念頭に、構成・バランス・統一と変化という基本を学ぶ。
10	コラージュ（制作・完成）	前回の授業で行った構想を、画用紙上に適切な大きさに切った素材を置き、移動させバランスがしっかりとれたら糊付けして仕上げる。
11	スパッタリング	スパッタリング（霧ぼかし、網ぼかし）はコツを会得すると幼児でも綺麗に制作できることを学ぶ。ステンシル（型紙）と併用すると更に美しい絵になることを理解する。
12	スクラッチ	予め画用紙にクレパスや水彩絵の具で下絵を描き、その上を黒のクレパスで塗りつぶした後、ニードルでひっ掻き暗闇の中に下絵を浮かび上がらせるスクラッチ（ひっ掻き技法）を体験する。
13	スタンピング	絵の具のつく物なら何でもよいことを学び、木目・布など色々な物質を探し体験する。どの技法でも、自らの目で注意深く周囲を見つめ、活用に値するものを見つけることを学ぶ。
14	にじみ	にじみは日常生活の中で目にすることの多い現象なので制作も簡単であることから、レベルアップを目指し、絵の具と水分の調整と画用紙に含ませる水分量に変化を持たせることを学ぶ。
15	フロッタージュ	硬貨の上に薄い紙を置き、その上を鉛筆等で擦って写し取る子どもの遊びであるフロッタージュについて、葉の葉脈、樹の年輪など下に置くものがどのような物があるのか考え、体験する。
	期末試験は実施しない	
参考書・参考資料： 過年度卒業生の作品、掲示した自分たちの作品等を参考にして次の制作に活かしていく。		
学生に対する評価方法： ノート、表現された作品、授業への取り組みなどで総合評価。		